

出会い再び

2025. 12. 1

週に2回、市役所に行っている。文書送達という業務のためである。担当部署に文書等を提出し、必要なものを受け取ってくる仕事である。まあ、いうなれば大人のおつかいだろうか。

いつも必ず行く担当課がある。それとは別に、たまに行く課がある。これが楽しみである。役所というところは、フロアや担当部署によって雰囲気が違う。仕事の内容も人も違うからだろうか。

この前は、〇〇課に行くことになった。久しぶりである。この課では、採用4年目になる知り合いの方が活躍している。ちょうど1年前である。今回と同じ用事で、この課に行ったことがある。任務を終え、エレベーターへと向かっていた。すると、背後から私を呼ぶ声がした。彼女だった。わざわざ追いかけてきてくれた。このエピソードは、昨年の「園長通信～こころ～」第150号に載っている。

採用4年目を迎える彼女が、まだ同じ課にいることはわかっていた。今日は、もしかしたら会えるかもしれない。そんなことを考えながら、エレベーターに乗り、4階のボタンを押した。4階の様子を観察しながら、〇〇課へと向かった。

カウンターの近くにいた方に声をかけようとする、私を見てすぐに反応した。彼女だった。こちらもすぐに彼女だと認識した。あまりにもあっけなく再会できた。何だかうれしかった。1年前とは、少し雰囲気が違っていた。市役所の職員として、いや社会人としての落ち着きを感じることができた。

きっと、この3年あまりの間に、様々な経験をし、自分を成長させてきたのだろう。思い悩んだ日々もあったはずである。まわりの方々に助けられたこともあったに違いない。そうやって、少しずつ自信をつけてきたのかもしれない。自信というのは、社会人としてやっていけそう。市の職員として頑張っていけそうだという感触のようなものである。手応えといってもよいかもしれない。

1年前も思ったのだが、彼女は、我が娘と同じような雰囲気をもっている。似ている。それもあってか、応援したくなる。今でも忘れない。彼女が採用1年目で、私の前に現れた日のことを。初々しいのだが、何か芯のある、将来性を感じさせる人物だった。あのときの私の眼に狂いはなかったように思う。私の読みに、間違いはなかったと思っている。

醸し出す雰囲気というのは重要である。いろいろな人と接しながら仕事を進める立場であろう。第一印象も含めて、その人がもっている雰囲気は事の正否を左右することもある。同じ部署で4年目になるが、仕事の内容は変わったとのことだった。いろいろな仕事を経験して、自分を成長させてくださいと励ました。

彼女は、まだまだ若い。まわりの方々への感謝を忘れずに、日々、精進してほしい。20代が重要である。「若いときに流さなかった汗は、老いてから涙となる」今度は、用もないのに、4階をうろうろしてみようか。彼女の今後の活躍と成長が楽しみである。